音声研究と音声教育

小松　雅彦／相原　昌彦

言語教育において，これまで音声教育はあまり実践されてこなかったが，徐々にその重要性は認識されてきている。本研究グループでは，幅広く音声とその教育について研究を行う。現在は，特に，英語の韻律に焦点をあてて研究している。

本研究グループでは，5言語（イギリス英語ほか）の音声データからなる多言語音声コーパスMULTEXT Prosodic Database（1998）のアメリカ英語版の作成を進めている。これまでに，暫定的なデータを用い，アメリカ英語音声とイギリス英語音声の比較を，速度，リズム，イントネーションから行った。アメリカ英語は「ゆっくりとした印象」「単調に聞こえる」，イギリス英語は「歯切れが良い印象」「大げさに聞こえる」と言われるが，その音響的な特徴を調べるのが目的である。研究成果は，口頭（招聘）および論文で発表した。今後は，MULTEXTのアメリカ英語版の作成をさらに進める予定である。

さらに，『国際音声記号ハンドブック』掲載のテキストThe north wind and the sunのアメリカ英語音声およびイギリス英語音声の収録を，複数人の話者で条件を変えて実施する予定である。この音声は，日本人英語学習者の音声と比較することも計画している。